

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第1941回★★ ロクロ天井Ⅱ1471m 焼山 Ⅲ1709m	4/2(金)～4(日) PM8:00	伊藤 潤治 (463-4936)	京都IC-恵那IC-風神 神社…焼山…狸沢小屋(泊) …ロクロ天井(往路帰る)
地形図, 中津川(飯田8号)。資料として『ぎふ百山』ロクロ天井P120。焼山P122。			
第1942回★★★ 春山大会 能郷白山	4/10(土)11(日) 10日AM8:00 壬生	三橋 勉(565) 岡田, 津田	京都IC-大垣IC-根尾 谷(幕営)…カラホラ谷… 能郷白山往復
装備-シュラフ, 防寒具, スパッツ, スtock, 軽アイゼン, 食器, 食料-昼食2食, 行動食 地図-根尾, 能郷白山(1/2.5万図), 申込-4月7日(車の都合の為, 必ず連絡のこと) 途中, 谷汲山参詣, うすずみ桜見物, 無形文化財狂言 寄り道あり。			
第1943回★★★ 権現山Ⅲ527m 千年椿	4/17(日) JR京都駅山陰線 AM6:27	山下 周道 (自611-1509)	宮津線・野田川…権現山… 滝野千年椿…(往路帰路) 5万図 大江山
第1944回★★★ 高岡山と オオボウソウ	4/24(土) AM7:00 壬生	大槻雅弘(504)	京都-上夜久野-直見… 高岡山…オオボウソウ… 才谷-上夜久野-京都
京都府下には, 500m以上の△が182座あります。今年度から「京都府下の山シリーズ」 を始めます。あまり名の知られていない山ですが, 35座を適宜選んで期間も限定せずに登り ます。目立たない静かな山をゆっくりと歩いてみませんか。1/2.5万図〔直見〕			
第1945回★★★ 経ヶ岳	4/24(土)～25(日)	三橋 勉(811)	京都東IC-伊那北IC- 信濃川島-横川林道… 経ヶ岳△2296m
マイカーでテント泊まりです。参加希望者は担当者まで申し込みのこと。			
今月の集会 日時 4月12日(月)PM6:30 場所 厚生会館 4F 大教室		企画運営委員会 日時 4月20日(火)PM6:30 場所 厚生会館 4F 大教室	



点 と 線 の 謎

岡田茂久

先日、平安京の造営にまつわる興味ある説を京大の宮崎教授が述べておられた。平安京はなにを基準に造営されたのであろうか。

中国伝来の陰陽道によると、都は東西南北の辺を持つ正方形で、東は青竜で川があり、西は白虎で道が、南は朱雀で池、北は玄武で山がある地形が四神相応といって良く、朱雀の方向に朱火宮という神仙界への入口を暗示する三角形の山か岩が必要であるとされていた。京都盆地は都として理想的な地形をしているのである。比叡山と愛宕山を結ぶ線は真の東西線で、それと並行した船岡山の位置を北大路とした。そして基準となる朱火宮を新田辺の甘奈備山として、朱火宮から真北に線を延ばし南北の中心となる朱雀大路とし、右京と左京の縄張りをしたという。この朱火宮から真北に線を延ばすと船岡山の岩座に行き当たる。この岩座が都の中心であると今まで多く解釈されてきたが、本当の基線是新田辺の甘奈備山が基であることは初めて知ることであった。

都の造営だけでなく古代人は、このように地形を巧みに利用した点と線を結び、それに人工的な建造物を配してさまざまな遺跡を残した。特に太陽信仰にまつわる遺跡は多数発見されている。

六甲連山東端の甲山の南に西宮市北山公園がある。この公園の標高221mの山頂には、巨石群とストーンサークルと思われる列石があり、不思議な片方が開いたく状の切れ込みのある石がある。く状の切り口を延長するとそれぞれ冬至の日没の方向と夏至の日の出、冬至の日の出の方向と夏至の日没の方向といわれている。この石と南麓の越木岩神社の岩座は真南北線上である。

そのほか大和三山の三輪山から畝傍山の線も冬至の日没、夏至の日出の線と言われ、耳無山と天の香具山を結ぶ線は、なぜか三輪山と畝傍山を結ぶ線と直角に交わっている。以前に本欄にも書いたが、滋賀県太郎坊宮の巨大な岩座を立ち割った冬至の日没、夏至の日出線は見事である。是非とも一度訪ねられることをお勧めする。中でも壮大なのは伊勢湾の神島から伊勢斎宮跡、室生寺から長谷寺を経て大和の箸墓、堺の仁徳天皇陵から淡路島の伊勢の森を継ぐ、北緯34度32分の線上の延々200kmにも及ぶ古代太陽の道であろう。機会があれば是非歩いてみたいと思っている。

京都では平安京遷都に深く係わった秦氏の氏神である蚕ノ社の三柱鳥居が有名である。蚕ノ社の森は子供の頃に良く遊んだ場所で、正三角形の石の鳥居が神泉の中に建っている。この鳥居の南西角と松尾神社の日崎峰を結ぶ線が冬至の日没の方向であり、鳥居の南東角と稲荷山を結ぶ線が冬至の日出の方向であるという。また、北の角を延長すると双ヶ岡山頂の岩座に行き当たるのである。

地図を見ているうちに一つ不思議なことに気が付いた。西山の小塩山頂に淳和天皇陵がある。

なぜ標高641mもの山の頂上に天皇陵があるのか、蚕ノ社と松尾神社の日崎峰を結ぶ線を延長すると、大枝杵掛の光仁天皇皇后陵を経て、小塩山の淳和天皇陵の方向に当たるのである。光仁天皇皇后とは継子の桓武天皇の立太子に反対し、呪祚の科で殺されたといわれる女性であり、淳和天皇とは桓武天皇の第三子で四代後の天皇である。又、稲荷山と蚕ノ社を結ぶ線は、鳥居本の標高200mもの山腹に作られた嵯峨天皇陵の方向を経て愛宕山に至るのである。嵯峨天皇は桓武天皇の次子で三代後の天皇である。偶然と言ってしまってはそれまでだが、秦氏とも平安京遷都直前の長岡京廢都に深く係わった人々であり、平安京の安泰を願う都人の作為が感じられて仕方がない。

登山の折に山頂に巨石群でもあれば、ん！古代太陽信仰の遺跡かな。神社や祠、古墳でもみると何かと関連があるのではと、地図に定規を当てては古代のロマンに心を躍らせている最近である。

【1925回例会】

ごろごろ岳・甲山報告

伊藤潤治

1月23日(土)

三橋勉君と阪急河原町7:00発で、梅田・夙川乗替へ甲陽園8:38着。

阪急は「沿線のハイキング手帳」を駅で、希望者はもらえるので、三橋君が求めると、現在はそれに代るものを、販売しているという。彼はそれに、気前よく¥400を支払った。右に、左にと、早速役立ったが、お金をとるとは、とあきれた。

どうも道順が厄介、そう思ったので、2.5万図を用意していたが、地図だけでは難かしかったかも知れない。なおこの日は、誰のためか「甲山大師」矢印が各要用に貼ってあったりして、たいへんややこしい道順もすいすいと進めた。

甲山大師は山門に、武庫山を額に掲げ、碑には、淳和天皇勅願、真言宗御室派神呪寺、その他、休憩所など、篤い信仰によるものが整っていた。そこでは金剛、葛城などの遠景をたのしませてくれた。

神呪寺から山頂へも、いま風の名山らしい道になっていた。この登りは、体育行事で、後からやってきた中学生徒たちが、にぎやかに追越していった。

やはり追越して行かれると悔しい。しかし、まだそんな心があったのか、と自分の未熟さが、うら悲しく、喧騒が気になる小心も、嘆かわしいことである。気を引き締めて、鷲林寺に向う。こちらは落着ける山道が健在していた。

鷲林寺は、高野山真言宗で、観音仏を本尊にしていた。このお寺は、観音水をもらいに、容器持参のお詣りが多かった。

観音寺からごろごろ岳へは、右、せせらぎコース、左、尾根と分れている。時節柄尾根筋がよ

かろうと左に入る。いきなり風化した露岩登りであって、面喰った。それに甲山の小さく見えたのも意外であった。この険しさは、『近畿の登山(1924年)』が、「甲山の裏より鷺林寺に出て、観音寺に出て、観音堂を経て、眺望美しき観音山に登り、十町にして奥池に出る。登路悪絶峻悪である。」と案内しているほどである。

観音山・526mの好展望には、びっくり、頂上がコースから外れているのにも感動した。ここに缶ビールがあれば、さらにであるが。観音山からごろごろ岳へは、落葉樹の立つ穏やかな、ところどころに霜柱の氷る道、カベノ城道を左にみていくと、右に広大な新築ができていて、おやおやといぶかしがっていると、若い女性が登ってこられたので、尋ねると、ごろごろ岳は、すぐ先であった。

ごろごろ岳Ⅲ565.6mは、小祠でもあれば別だが、この頂上観音山の佳境に浸ってきたばかりのためか、ひどく見劣りした。

ちなみに、『近畿の山と谷(住友山岳会・1936)』に、この山について「剣谷山(565m)。東麓に鷺林寺から苦楽園に亘る高地を抱き、甲山を出丸として、摂津平野に対し第一陣を布く、六甲の前衛である。竹中靖一氏「六甲」に「^{ゴコロ}雷岳」、剣谷山の偽称、コレハ三角点五六五、六ノ語呂ニヨッテ附セラレタモノダ、カヽル名称ハ早く消滅センコトヲ望ム」とあるは無条件に賛成する」。があるので、ご参考までに。

ごろごろ岳からは、岩でけわしい苦楽園尾根を、阪急甲陽園駅へ無事下山したが、きょうの行程で、二等三角点の甲山が小さく見えたり、ごろごろ岳が期待外れであったことを考えてみると、どうもそれぞれ一日一山と分けて登るべきであったようだ。今西先生の足跡も、ごろごろ岳は、1987.2.15、甲山は1987.3.15であり、そうすれば、自然観察・史跡探訪など、ずいぶん優雅で、うらやましがられる価値高き遊山になる。のではないかと思った。

コースタイム、甲山大師9:30・Ⅱ△9.55、鷺林寺10:48。観音山11:35~12:25・ごろごろ岳13:00・阪急甲陽園駅14:28。

【第1928回例会】

仏ヶ後（アカイシ）報告

伊藤潤治

二月五日 京都駅8時5分発で、ブキさんにお待たせをして、米原駅から国道8号線を彦根に向い、和佐山隧道を抜けた先で、R307号へ左折して、「お伊勢一度に 熊野へ三度 お多賀さんには月参り」と俚謡にあるお多賀さんに来て、伊勢路のR306号を左に見て、湖東三山の西明寺・金剛輪寺を素通りして、宇曾川右岸道を左折、なお快走が続き宇曾川ダムに着いた。

まぶしい快晴、やんわりと覆れた雪景は美しかった。美しいけれども、それからがたいへんである。

ダムを後にすると林道は、いよいよ処女雪。緩いけれども息切れするやら、眼に汗がしむので立ち止まったり、汗を拭い小憩を重ねた。

サンゼン峠東稜から北東に派生している尾根下で、対岸に△704.3mへほぼ直線のお利口そうなルートを発見したのだが、取付こうと挑んだものの、渡渉点不明と深雪に阻まれてしまった。

三又橋について、昼食をすますと、荷物をそこに置き、久しぶりに輪かんじきの登行をすることにした。足取り軽く空身は楽しい、これでストックが両手にあれば、一層のことであろう。

左折、第一の林道はすぐ詰った。左折二本目、この谷の林道は、かねて有望と囑目していたのだが、入ってみると、意外に浅く、しかも終点付近を枝谷が流失させたため、立往生の有様。その上、向う側に踏跡が見当らず、これではと尻込みして、本流林道を上り切り高度をかせぎ、そこから1991年は地図を確かめずに右を登ったが、今年は左を登った。茂っていたが古い鉈目、枝折りの点在している藪尾根である。

稜線の多賀町領は植樹で、展望はなかった。下りが続き少しで、1990年のコースと出合う所で、時間一パイになり、往路を、あかね色の荘厳な夕空を拝し、月が昇り雪道に映る影法師を友に、下山してきた。

仏ヶ後は「ほとけうら」が正しいようだが、地元で耳にしたのは「ほとけら」であった。珍しい呼称だと思っていると、ブキさんから、なき岳友高田氏巴君の追悼山行の話があって、第一候補にあがり登ることになったのである。

1990年は、北側の谷からのつもりであったが、犬上ダム側になった。積雪は約20センチでよかったが、ガスが濃く、行きつ戻りつ、どうしても頂上稜に入れず、昼食時に、ちらりと姿をみせてくれただけ。

この根性の悪さにあきれ、そのあと愛想のよいハツ尾山に登って帰った。

その折、宇曾川林道がコースとして浮上し、翌1991年に見参した。けれども雪とガス等のため果たせなかった。

1992年は霜津岳IV638m(谷汲)に切り替へ、登頂に成功したことで、もう、仏ヶ後は放棄したものと思っていると、今年は片付けてしまおう、と相成った次第であった。

考えてみると、宇曾川林道の積雪期は、歩き出しがダムからになり、距離が長すぎる。その点、犬上ダムはアプローチが少ないだけ、有利であると思える。

私たちは、この山には、どうも力量不足のようでもあるが、ひょっとすると、この登山日の二月五日が、壁なのかも知れない。といっても二月五日は、ブキさんと私には、生涯欠かすことのできない氏巴忌の登山日である。

大雨見山（1等△1,336m）

井戸 澄夫

2.12, 夜 富山ICより国道41号に入ると、雪は益々激しくなり、路面は凍てつき、みるみる白くなっていく。それでも三橋氏のスタッドレスは滑ることなく、しっかりと雪を噛んで走る。夜行便のトラックがびっくりするほど通る。ほとんどチェーンをつけていない。神岡の町にくるのは初めてである。2:00過ぎに流葉スキー場到着。国道沿いにテントを張り就寝した。

2.13. 朝 ゆっくりと起床。昨夜の雪で約30cm積もった。流葉スキー場のリフトで上部のゲレンデへ。山頂へは約30分の登高である。山頂（△1,422.7）で昼食をとる。徐々に好天となり、見晴らしがよくなってきた。南方に御岳、乗鞍の巨大な山体、東には笠ヶ岳、穂高、槍の北ア主峰が雪化粧した岩壁を見せている。なだらかな斜面にすっぽりと雪をかぶせているのは双六、三俣蓮華か。明日の予定の大雨見山が一段低いところに見える。

2.14 昨夕、京大飛騨天文台への林道登り口にテントを張ったが、夜中に雪をかぶり、約50cm積もった。朝もまだ降りつづいている。林道は雪がつもり格好のスロープをつくっている。スキーがもぐるので3人交代で先頭を代わる。ゲートより上への入山については、大槻氏が事前に了解をとっている。3時間強で天文台に着いた。当直の方にことわって、軒先で休憩する。腹ごしらえして、頂上への登りにかかる。山頂までは約500m、高度差で80m程度である。夏はヤブをこぐところを、今は針葉樹が頭を見せる程度である。頂上に近づくにつれて、ガスが切れ、山体が見えてきた。天候はようやくにして回復のきざしを見せている。頂上直下の急坂を登り切ったところが山頂である。1336m一等補点である。三角点は残念ながら雪に埋もれて掘り出せなかった。セレモニー後、シールをはずして一気にすべり下りた。楽しいスキーツアーであった。

〔参加者〕 大槻、三橋、井戸

〔コースタイム〕

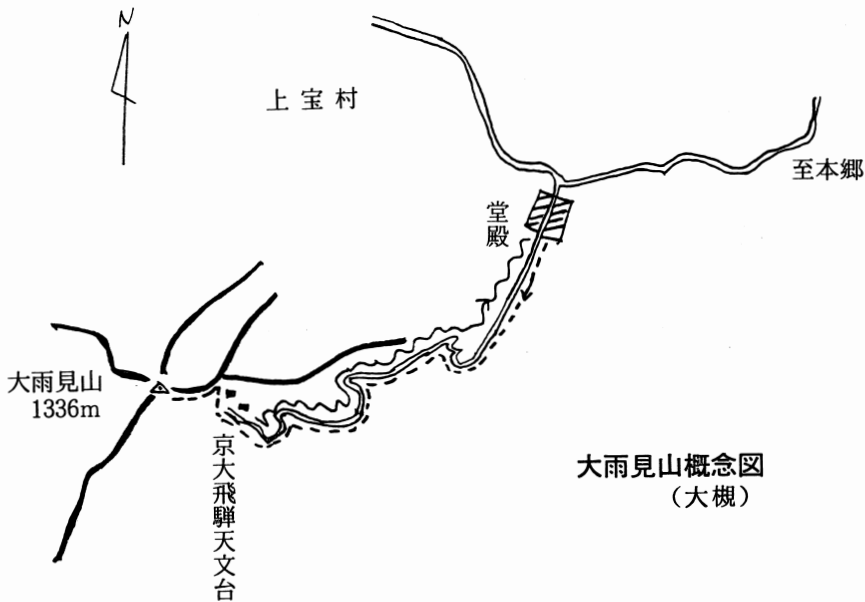
2/12 三橋宅—京都東IC（名神・北陸）富山IC—神岡—流葉（泊）
（21:00） （2:00）

2/13 流葉スキー場……△流葉山——天文台林道入口（泊）

2/14 林道入口8:00……11:30天文台（昼食）12:20……

13:10△大雨見山13:40……15:00林道入口

——21:00京都着



【第1931回例会】

金剛童子山・花折山

河村 清

2月7日

1929回例会（2月7日・明神）は積雪の都合上延期して、1931回例会（2月20日）を繰り上げ実施しました。

阪急河原町駅7時02分発に乗車、3回乗り換え神戸電鉄谷上駅（9:13）に着く、住宅街を抜けて谷山川沿いの車道に出た（9:32）。この道は兵庫ゴルフ場へ通じている舗装道路であったが、登りばかりで一汗かかされた。

右手の鰻手池（10:30）を通り過ぎた処の黒甲越道には入らず、そのまま車道を行き、地図上一つ目の谷に踏跡を見付けて三角点え直登する。榊・しきび等がよく目につくところだった。

金剛童子山△566（11:05）山頂はかなり広いが展望はよくない、その中心に鰻頭型に盛り上がった処に三角点は見え隠れしていた。天候も怪しいので三角点を眺めながら昼食にする。時雨てきた（12:30）ので、次の花折山へ向かう、もとの車道へは迂回して戻り、ゴルフ場を右手に眺め時々時雨の中を行く、（12:55）車道左側に花折山登山口を見付けては入る。

花折山△574（13:15）山頂は雑木林の中で狭くて展望全くなし。万歳と乾杯をすませて早立ち、往路を戻るのも芸がないので、東南の踏跡に入り柏谷本流に向かう。急な下りなので支谷にはすぐ下りた。だが、岩盤の谷なのでスリップに注意しなければならない。本流出合（13:50）

の道標には（多田繁次の道）と注記がしてあった。

それよりキャンプ場を過ぎ、青葉台住宅街等（15：30）を通過、国道428号横断、箕谷駅16：06発に乗車、18：15無事阪急河原町着。

〔参加者〕 伊藤潤治、山下周道、河村 清 その他男女1名ずつ

【個人山行】

野竹法師 971m と如法山 609m

坂井久光

2月11日、9：10発特急くろしお号で南紀田辺へ11：43着。神戸の友人2人と待合せ13：30発の本宮行バスに乗り、中辺路添いに富田川の清流に沿って走り、鮎川温泉・真砂・清姫と伝説の里を通り、滝尻を経て栗栖川で5分休憩。

この先は国道311号線も一車線となり、福定を過ぎ逢坂峠を越えると近露の里で日置川の上流域に入る。又小広峠を越えると四村川の流域となり、平井郷・大瀬・皆地を通りトンネルを潜って渡瀬へ。此所で下車して橋を渡って本宮クアハウスを通り、釣橋を渡ってわたらせ山荘へ16時到着。先づは同経営の笹百合ホテルへ入浴して旅の疲を癒す。夕食は豪華で食べ切れない程だった。名物の露天風呂に浸り、浮世の憂さを流して就寝。

2月12日 8時タクシーで大瀬へ。橋を渡り杉林の急斜をくねって登る。大瀬の山上集落は石垣のみの廃村となっていた。杓子峠を越えガレた谷道をジグザグに下って山腹の山道を通って大塔川の高山谷の山小屋に下った。

谷を100m程遡って小谷の出合で谷に下り、登り口を探した。10：00～10：20。シダに蔽いかくれた山道をTが見付けて先頭になり登った。

やがて稜線に出て、はっきりした道となり、急な登りもあったが廃道かと心配していたが、道は残っていた。750mの独標で一休して、野竹法師に12：21～13：03到着。ゆっくり昼食のおにぎりを食べたり、コーヒーを沸かして飲んだりして休んだ。展望は周囲が林の為、すくない。新宮山彦グループの標があった。

下山はコンニャク山經由椿尾峠に決して急坂を下って、登り切るとコンニャク山1333。それから道が不明瞭な地点もあったが、赤の標識と読図に依り天候に恵まれ眼下に皆根川林道を見晴らす伐採後の稜線に出た。そこから又杉林の尾根道を通って椿尾峠へ、14：38。林道へは急な尾根道を一気に下り15：15着。国道311号の平井郷へ15：35～15：45。1キロ程歩いた処で車に拾はれ川湯温泉へ。民宿すみやへ16：17着。

夕食後千人（仙人）風呂の露天風呂へ入浴しに行った。満天の星を眺め出湯に浸っていると、天国とは斯様な処かと感じたりする。

過ぎし日牧さんと3人で、大塔山を登って泊り、川原で掘って入浴した思出があるが、今は店も多くホテルも建ち、川原は整備されて巾20m長さ50mの深さ50cm程の良い浴場となって

いた。

2月13日 6時起床で弁当を持って6:42出発。請川の熊野古道雲取越に向った。登山口7:20、石段を登って巾2m程の良い道が杉林の尾根に沿って延々と続く。今日も快晴で気分良く歩けた。観ればS.39.10.26那智山から出発して小口を経て如法山に登って川湯温泉に下って泊った記憶がある。今日は如法山へ古道を通して登り、請川谷へ下って本宮に出て帰る予定であった。松畑の廃村を経て如法山の肩の分岐を北に昔通った尾根筋を登った。当時山上は伐採されて倒木で三角点は隠されていた。少し藪の処もあったが、一気に登って一休、9:45~10:30。此所も三等三角点の傍に新宮山彦グループの標があった。今回の山行も紀州山の会の伊藤貞雄著の紀州の山々と新宮山の会の南紀の山と谷を参考資料として使用したが、行仙の小屋と云い山深い南紀の山々をよく歩かれた玉岡さんに、深く敬意を表する次第である。

下山は松畑茶屋の分岐を左へ、山道を通して請川谷の上流に出て請川へ13:00。本宮へ行き13:42熊野大社に詣で14:56発新宮行バスに乗り、神戸組と別れ、白浜へ17:47。故今津博士（イマズ蠅取粉の発明者）の宅を訪れ、昔懐しいダンスホールは司法書士の事務所と変り、その上の地に博士の御影石造りの2m程の石碑があり、博士と礼子夫人の名と、博士の略歴が彫られてあり夫人に聞くと分骨してあるとのこと。お参して、民宿美の浦を紹介して頂き一泊。

翌日平草原の一等△と天側点を見に登ったが、ゴルフ場となっており、展望基線が山上近くの斜面にふたがしてあったのを見付けた。

【岳連行事】

積雪期指導員検定・講習会に参加して

山岡 昭弘

2月10日夜、期待と大きな不安を乗せてバスは東本願寺前を出発した。

2月11日早朝、みのと口に到着、みんな慣れた手つきで身じたくを整え、順次、赤岳鉱泉小屋へ向けて出発していった。私も、やっとの思いで朝食を済ませ、身じたくを整え出発する。まわりの景色を楽しみながら（というのは表向きで、実は少々バテ気味だった。）約3・5時間かけて赤岳鉱泉小屋に到着、部屋へ入った。

私の部屋は、馬淵君を含め受検者ばかり9名であった。話を聞いていると、冬山の経験の一番浅いのは私みたい、何と分不相応のところに来たものかと不安がより一層大きくなった。

昼食後、中山乗越手前の斜面に全員集合し講習の後、1日目の検定（滑落停止技術、アイゼンとピッケルの使い方）に入った。緊張する！できるだけ生徒役の人に語りかけるような口調で説明を行い、実技を行った。初日の難関「一本じめアイゼン着用」は、検定直前に他の受検者から事前講習を受け、何とか切りぬけた。それでも、緊張していたため、説明がだいぶぬけたみたいで、検定員から指摘を受けた。

2月12日、午前中、昨日と同じ中山乗越手前の斜面で2日目の検定（隔時登攀、連続登攀）に入った。本日の検定員は岡田さん、吉田さん。多少安心したものの気を引き締めていく……。昨日よりも少し検定慣れしたのか、今日は、疑問点を検定員に尋ねる余裕もできた。

2月12日、午後からは、雪上歩行技術の検定と実践検定とを合わせて行うということで、地藏尾根まで歩いた。ここでとんだハプニング、2人アンザイレンして隔時登攀の実践検定を行うという。やった事がない！ 他の検定者のやり方を盗め！ 馬淵君と2人で最後の方に検定を受けた。でも、初心者の悲しさ。付け焼き刃は通用しない。いろいろと指摘を受けてしまった。反省！

アイゼン歩行技術、滑落停止技術の実践検定を済ませ、疲れた身体を引きずりながら、赤岳鉱泉小屋に戻った。

「やっと終わった」と思う間もなく結果発表の時間。受検者一同廊下に並び、1人ずつ検定員のいる部屋へ入っていき、そこで講評と検定結果を告白されるのだ。面接試験の前のあの緊張感と同じものを久しぶりに味わった。「どうだった？」「OK！」拍手！握手！……私も若干講評はあったものの、了解点に達していたのか、合格であった。今までの疲れもぶっ飛んだ。今日は、よく眠れるぞ……。

2月13日、午前中、昨日の思い出の地藏尾根を通して、赤岳～文三郎尾根と縦走を行った。前2日と比べて、見るものすべてが、何かしら新鮮に見えた。誰もが言う。「指導員とは、資格をとった時がゴールではなく、資格をとった時が自己研鑽のスタートである。」と。そういう決意も新たに、次の無雪期の指導員検定に向かっていかねばならないと感じた。

最後になりましたが、貴重な時間を割いて、未熟な私たちをここまで引っぱって下さいました関係各位に感謝すると共に、今後、私たち引き続いて、指導員検定に挑戦される方が出てくれることを望みます。

【岳連行事】

岳連八ヶ岳冬山講習会（阿弥陀岳 2,805m）

馬淵拓巳

山岳連盟主催の八ヶ岳冬山講習会は、今回で、2回目の参加である。

昨年、はじめて厳冬の赤岳に登り、冬山の素晴らしさに感動し、病み付きになったのである。前回参加したときとは違い、今回は、山岡さんと私のC級スポーツ指導員検定試験（氷雪期）の受験が、スケジュールの中に入っているのである。

2月10日夜、京都東本願寺前を出発し、八ヶ岳へと向かう。

2月11日は、午後3時から検定試験。12日は、全日、検定試験。結果はというと、事前に岡田さんや吉田さんをはじめ、多くの京交の先輩の方から特訓していただいたおかげで、山岡さ

んはもちろん、本番に強い(?)私も合格!!

2月13日、検定試験も終わり、いよいよピークハンティング。今回は、大丸山岳部の河野さんをリーダーとするパーティーに参加させていただき、阿弥陀岳(2,805m)をめざすこととする。

朝8時、赤岳鉱泉小屋を出発。中山乗越を経て行者小屋へ。ここで、息を整えながらアイゼンを装着。ここまで来れば、めざす阿弥陀岳はもう目の前に迫っている。ここからは、赤岳と阿弥陀岳とのコルへと至る、北稜東側の谷を直登する。この直登路が、見た目よりも長く、コルで休憩をとるまでに1時間はかかったように思う。

コルは、赤岳はもちろんのこと、富士山、北アルプス、中央アルプス、南アルプスなどの山々が望める素晴らしいところだ。これらの山々を観ていると、直登での疲れも吹っ飛んでしまう。やっぱり、山をやって良かったなって思う。

コルからのルートは、雪と岩のミックスとなっており、いよいよ、本格的な冬山の世界である。

斜度の急なところでは、ピッケルのピックを使い、やせ尾根では、慎重に足場を選びアイゼンを効かせる。

ピークに着いたのは、12時前。みんなで握手を交わし、記念写真を撮った。

下山後、午後からは、ゾンデ棒を使った雪崩時の遭難救助訓練やビバーク時の雪洞掘りの講習を受け、翌日朝、八ヶ岳を後にした。

〔参加者〕 岡田、鷺見、吉田、方山、山岡、馬淵

平成4年度 京交山岳部

総 会 報 告

3月12日(金)18時30分より、ハウス竹田において、平成4年度の京交山岳部総会を開催しました。大倉氏の司会で議長に吉田武氏を選出し、近藤氏の乾杯の発声後議事にはいりました。

〔出度者〕

(OB) 近藤, 山村, 田中, 伊藤, 山下, 奥村, 津田, 河村, 辻

(本局) 岡田, 鷺見敏, 大槻, 三浦, 渡辺, 和田, 若山, 田村, 井戸, 竹田, 山元, 川原, 馬淵, 山岡, 清水, 井上

(高速) 大倉, 松田, 尾川原 (梅津) 吉田 (烏丸) 台川 以上 30名

議 題

- 1 平成4年度 山岳部事業報告
- 2 平成4年度 山岳部活動表彰
- 3 平成4年度 会 計 決 算
- 4 平成5年度 会 計 予 算
- 5 平成5年度 山岳部年間計画
- 6 そ の 他

質 疑 等

3 平成4年度 会計決算

要望(鷺見) 遭対資金の預金は有利なものでお願いします。

4 平成5年度 会計予算

補足(岡田) 遭対資金は部費の1割を毎年積み立てるようにしてきたが、部報製作の関係で繰り入れが難しい。繰り入れを停止して、遭対資金の利息の積み立てで収入の10%を確保したい。部報代も70万円は確保する必要がある。

質疑(田村) 部報の割合が多いから、2~3ヶ月に1回の発行ではどうか。

回答(岡田) 山岳部活動の根幹は部報であり、今は考えていない。

以上の主な質疑がありました。その他誤字等の訂正は有りましたが、議題原案どおり承認されました。司会の閉会宣言により総会を終了しました。

議案等は以下のとおりです。

1 平成4年度 京交山岳部事業報告

(岡田部長)

例会は部活動の根幹で活動状況のバロメーターである。

平成4年度の山岳部活動状況は、京都国体の年の昭和63年に次ぐ不調の年となった。ようやく上昇傾向をみせた昨年度の状況から、例会の計画回数こそ57回と多かったものの、例会の部員総参加者数は258人で、一回当たりの平均参加者は5人程度となってしまった。そのわりに10人以上の参加者のあった例会が9回、反面、中止や参加者が全くなかった例会が11回もあり、例会の参加者が片寄っているのが目立つところである。一回でも例会に参加した部員の割合は、今年度も部員の1/3にも満たない比率となった。常時活動している部員はほぼ固定されてしまった言え、ほとんどの部員がペーパー会員というのは残念なことである。

常時活動の部員の平均年齢が上昇していることから、どうしても内容のある例会といえるものは敬遠されがちである。例会参加人員を増やすには、例会別の参加者の傾向から近郊の軽い山行を多くするのが早道であることはわかっている。しかし、山岳部と言う限りには、やはり内容のある例会が多くほしいところで、現在の様に企画運営委員がリーダーとなって例会を担当している現状では、近郊の軽い山行を多くするには限度がある。主旨の異なる例会なら同日に重なって計画されても良い。リーダーでなければ例会担当は出来ない訳ではなく、連れてもらう山行きから、自分で計画し実行する山行きへの移行を望むもので、近郊の軽い山行などだれでも気軽に例会担当をしたいものである。来年度には週休2日も確実視されてきた。構えて行く登山だけでなく、軽登山も多く計画していきたい。

集会の参加状況は相変わらず低調で、集会への参加経験者が部員の3割というのは例年と変わらない。集会の参加者も山行と同じように固定されてしまっているようだ。山に行かないから集会に参加しても面白くない。集会に参加しないから山からますます疎遠になるという悪循環となってしまう。とりえず手帳に集会の日時を記入してみよう。そして思い切って集会にも参加してみよう。きっとまた山が近くなるに違いない。

部報の投稿数は昨年度からは微増しているが、例会の報告数に比べ個人山行報告が4割を占めてしまった。また、OBからの投稿が5割を占めているのも異常で、現役部員の奮起が望まれる。投稿数の割に投稿が部員の2割なのは、投稿する人も限られているということでもなんとも寂しいかぎりである。部報は一部の部員のものでなく皆のものである。山行報告は簡単でもいい書くことに慣れようではないか。部報への投稿の第一歩は、まず山行の時に必ず地図を持ちメモをとることである。そして必ず帰宅後に整理することで出来上がる。ただ、今年度の決算報告にあるように、部報発行費が高騰し財政は厳しい状況で、来年度は個人山行報告は制限せざるを得なくなった。まことに残念なことではあるが、個人山行を例会にしてもらえば例会数も増え、一挙兩得となるので是非とも御協力をお願いしたい。

活動表彰では活動ランクの上位を、企画委員が占めているのは例年のことであるが、それでも毎年のように企画委員以外で活動表彰を受けている部員もある。物事は続けるという事も大事で、

例会の参加，企画，集会参加どれでもいい諸氏にも是非挑戦して頂きたい。

それでも停滞している活動状況の中で明るい希望が持てるのは，例会参加，例会企画，集会参加全てに一度以上参加した部員が今年度は2割強となり，昨年からの山岳部事務局と部報編集担当を願っているフレッシュマンが，改革されて文部省主管となるスポーツ指導員（山岳）の冬季実技試験に合格したことである。今後の山岳部活動への新風を期待しよう。ただ，お互いに登山はあくまで趣味の世界であり，人それぞれに山に対する考え方もある。古参者の考えを押しつけ，伸びる可能性のある芽を押さえる結果にならないよう，部員諸氏は暖かく見守って頂きたい。

平成4年1月～12月の活動状況

〈例会〉

第1865回～第1921回まで計画57回 実施53回 中止4回
全例会の延べ参加人員 258人（部員以外を含めると306人）
一例会当たりの平均参加人員 4.9人（ ” 5.8人）
例会に参加した部員数 49人（全部員の38.6%）
〔参考〕 10人以上参加のあった例会 9回
1人だけ（2人以下）の例会 7回（8回）

〈集会〉

平成4年1月（新年会兼集会）～12月まで 実施12回
全集会の延べ参加人員 183人（新年会35人，総会26人を
除くと122人）
一集会当たりの平均参加人員 15.3人（同上で12.2人）
集会に参加した部員数 41人（全部員の32.3%）

〈投稿〉

部報発行 平成4年1月号～12月号まで 発行12回
全部報の延べ投稿数 117稿（山声雪語を除くと105稿）
（内訳 例会報告62稿，個人山行43稿）
〔参考〕 OB部員からの投稿 54稿（46%）
各号当たりの平均投稿数 9.8稿（山声雪語を除くと8.8稿）
〔参考〕 一部報最高原稿月 14稿
一部報最低原稿月 6稿
投稿した部員数 35人（全部員の27.6%）

〈 総 合 〉

例会，集会，投稿のいずれかに1回以上参加した部員

58人（全部員の45.7%）

例会，集会，投稿の各々に1回以上参加した部員

27人（全部員の21.3%）

（平成4年12月末現在の部員数 127名 内OB部員 29名）

2. 平成4年度 山岳部活動表彰

（岡田部長）

例 会 参 加		
	18	岡田茂久
	16	伊藤潤治
	16	三橋勉
	15	方山宗子
	13	大槻雅弘
	10	津田実
	10	吉田武
○	10	渡辺智生
	9	鷺見敏一
	9	鷺見寿未子
	9	大倉寛治郎
	9	山下周道
	8	奥村弘信
	8	原田加津子
	8	上島和彦
	8	井戸澄夫

（7回以下省略）

集 会 参 加		
	12	津田実
	11	岡田茂久
	10	伊藤潤治
	10	奥村弘信
	10	大槻雅弘
	10	吉田勉
	10	和田良一
○	10	方山宗子
	8	三橋勉
	8	大倉寛治郎
	7	坂井久光
	7	井戸澄夫
	6	古市晶造
	5	鷺見敏一
	5	山元誠一

（4回以下省略）

部 報 投 稿		
○	19	伊藤潤治
	18	津田実
○	8	坂井久光
○	7	服部正義
	6	大槻雅弘
	4	岡田茂久
	4	大倉寛治郎
	3	三橋勉
	3	井戸澄夫
	2	山下周道
	2	横井襄二
	2	台川敦美
	2	方山宗子
	2	山岡昭弘
	2	西尾直樹
	2	清水康裕

（1回は省略）

総		合		例会	集会	部報
○	45	岡	田 茂 久	18	11	4 (12)
	45	伊	藤 潤 治	16	10	19
○	40	津	田 実	10	12	18
○	29	大	槻 雅 弘	13	10	6
○	27	三	橋 勉	16	8	3
	27	方	山 宗 子	15	10	2
	21	吉	田 武	10	10	1
	21	大	倉 寛 治 郎	9	8	4
	19	奥	村 弘 信	8	10	1
	18	坂	井 久 光	3	7	8
	18	井	戸 澄 夫	8	7	3
	15	山	下 周 道	9	4	2
	15	鷺	見 敏 一	9	5	1
	14	渡	辺 智 生	10	3	1

() は山声雪語

(14 回 以下 省略)

3. 平成4年度 会 計 決 算 (川原会計)

(単位：円)

平成4年度京交山岳部会計決算				
	収 入	金 額	支 出	金 額
一 般 会 計	1. 部 費	657,700	1. 備品消耗品費	6,334
	O B 170,500			
	本局 277,200		2. 助 成 金	11,000
	西賀茂 10,000			
	梅津 20,000		3. 総 会 費	20,000
	五条 10,000			
	醍醐 5,000		4. 部 報 代	646,216
	横大路 5,000			
	錦林 5,000		5. 通 信 費	47,103
	九条丸 5,000			
烏丸 20,000		6. 遭対資金積立金	15,000	
洛西 30,000				
高速 85,000		7. 岳 連 会 費	18,000	
市役所 15,000				
	2. 厚生会助成金	60,000	8. 事 務 費	1,905
	3. 雑 収 入	116,428		
	広 告 料	80,000	9. 雑 費	36,150
	雑 収 入	36,428		
	4. 前年度繰越金	702	12. 次年度繰越金	33,122
	合 計	834,830	合 計	834,830
45積立 周年記念 會計	1. 前年度繰越金	259,076	1. 次年度繰越金	259,076
	2. 3年度積立金	0		
	合 計	259,076	合 計	259,076
遭積立 難対策 資金會計	1. 前年度繰越金	1,952,944	1. 次年度繰越金	2,018,631
	2. 利 息	50,687		
	3. 一般会計繰入金	15,000		
	合 計	2,018,631	合 計	2,018,631

4. 平成5年度 会 計 予 算 (川原会計)

(単位：円)

平成5年度京交山岳部会計予算				
	収 入	金 額	支 出	金 額
一 般 会 計	1. 部 費 (130×5000=650000) (16×1500= 24000)	674, 000	1. 備 品 消 耗 品 費	20, 000
	2. 厚生会助成金	60, 000	2. 助 成 金	20, 000
	3. 雑 収 入 広 告 料 雑 収 入	80, 000 80, 000	3. 会 議 費	20, 000
	4. 前年度繰越金	33, 122	4. 部 報 代 (58333×12)	700, 000
			5. 通 信 費	50, 000
			6. 遭対資金積立金	0
			7. 岳 連 会 費	18, 000
			8. 事 務 費	2, 000
			9. 雑 費	17, 122
		合 計	847, 122	合 計
45積 周年 記念 計	1. 前年度繰越金	259, 076	1. 記念行事費用	259, 076
	合 計	259, 076	合 計	259, 076
遭積 難立 策資 金計	1. 前年度繰越金	2, 018, 631	1. 次年度繰越金	2, 068, 631
	2. 利 息 (2.5%)	50, 000		
	3. 一般会計繰越金	0		
	合 計	2, 068, 631	合 計	2, 068, 631

5. 平成5年度 京交山岳部年間計画

(大槻副部長)

項目 月	大会山行	山 行		行 事	備 考
				インドア	
4	春山大会	・能郷白山 ・経ヶ岳	・京都府下の山(1)		国体予選 17日～18日
5		・金峰山, 国師岳 ・白髪岳 (篠山) ・船上山	・両白山地三ノ峰 ・白倉山 (大台ヶ原)		府民登山大会 (岳連主催・春)
6		・南木曾山 ・剣尾山 (広根・園部) ・大峰山	・飯豊連峰縦走 ・ロクロ天井		
7	夏山大会	・南アルプス ・夏山合宿 ・尾瀬	・左千房 (沢登り) ・笠形山 (生野)		
8		・元越谷, 鈴鹿 (沢登り) ・白砂山 ・岩登り講習会 (比良シシ岩)	・丹後由良ガ岳 ・巳高山 (横山)	厚生会登山	
9		・金毘羅 (大原) ・鈴鹿藤内壁 ・兜岳, 鎧岳	・大無間山 ・乗鞍岳 (北ア) ・俱留尊山 (名張)		岳連岩登り研修 国民体育大会
10		・猿登(彦根東部)(宮後忌) ・桑崎山 (有峰湖) ・台高三ノ公～カクシ平～薫峰	・火燈山 ・北小松シシ岩		府民登山大会
11	秋山大会	・秩父山地雲取山 ・初瀬山, 竜王山 (桜井) ・国見, 住吉山 (名張山群)	・京都府下の山(2) ・大札山, 蕎麦粒山 (千頭)		全日本登山大会 京都山の会合同登山 遭難をなくす集い
12		・京都府下の山(3) ・納山祭 (西山・烏ヶ岳)	・烏帽子山 (513m) と香住	納山祭	
1	冬山大会	・初登山 犬鳴山 ・野沢温泉スキー	・上高地トレッキング	新年会	積雪期救助訓練 岳連スキー
2		・聖山スキー登山 ・野伏岳			岳連冬山研修 (八ヶ岳)
3	春山大会	・春山大会 (木曽駒ヶ岳) ・瑞牆山, 金峰山 (奥秩父) ・黒姫山スキーツアー	・春山合宿 (白馬岳) ・遠見合宿	総会	
<ul style="list-style-type: none"> ・府県境シリーズの残りを計画したい。 ・45周年記念出版関連の山を計画したい。 ・インドアの勉強会を, 集会とし別に行いたい。 ・年間を通じて基礎技術のマスターと反復練習を行いたい。 ・日頃, 山にご無沙汰の部員が誰でも簡単に行ける近郊の山を計画したい。 					

6. そ の 他

山岳連盟派遣役員について

常任理事	吉田 武		
理 事	井戸 澄夫		
評 議 員	出 海 洋 三		
自然保護委員	近 藤 薫	坂 井 久 光	奥 村 弘 信
京 都 一 周 トレール特別委員	坂 井 久 光	奥 村 弘 信	
国 体 委 員	鷺 見 敏 一	吉 田 武	馬 淵 拓 巳
指 導 委 員 会	岡 田 茂 久	吉 田 武	
遭 難 救 助 隊 員	吉 田 武	岡 本 義 弘	大 倉 寛 治 郎
	馬 淵 拓 巳	山 岡 昭 弘	

▲▲▲

日山協山岳保険加入希望者は、事務局・井戸に連絡してください。

保険料金 1年間 (H5:4:1~H6:3:31) ￥7,920-です。

補償等詳細は事務局へどうぞ。

万一の場合を考慮して委員は勿論、部員の方にも、知らせてください。

例会報告

例会No	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1925	ごろごろ岳・甲山	1月23日		伊藤 潤治	三橋 勉	(別稿詳報)
1928	仏ヶ後 (アカイシ)	2月5日		伊藤 潤治	他1名	(別稿詳報)
1930	大雨見山	2月12日 ~14日		大槻 雅弘	三橋 勉 井戸 澄夫	(別稿詳報)
1931	金剛童子山・花折山	(変更) 2月7日		山下 周道	伊藤 潤治 河村 清	(別稿詳報)
1932	(変更) ブンゲン	2月27日	晴れ	三橋 勉	大槻 雅弘	当初、斑尾山の予定であったが変更し、前夜発で奥伊吹のスキー場で仮眠する。 翌朝9時に1本目のリフトに乗り、次のリフトが満員なのでシールをつけて登り出した。品谷峠から上のリフトは運転していなかった。7年前より積雪が少なかったが、約2時間で頂上に到着した。 南にボリュームのある伊吹山、そして琵琶湖、金糞岳、横山ダム周辺の山々や貝月山など大展望の雪山が見えてゴキゲンであった。

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
〔岳連〕 南八ヶ岳 阿弥陀岳	2月10日 ~14日		岡田, 鷺見 吉田, 方山 山岡, 馬淵	(別稿詳報)
野竹法師・ 如法山	2月11日 ~14日		坂井 久光 他2名	(別稿詳報)

雑 報

▲▲▲ 3月の集会（総会に引き続き開催）

出席者 総会と同じ

内 容 例会予告。部報製作費値上げに伴う紙面変更の説明と協力をお願い。

▲▲▲ 退 部

徳田 真三（西賀茂），山田 哲也（竹田）

▲▲▲ 平成3年度～4年度分の部報製本のお知らせ

2年に一度山岳部部報製本の時期になりました。取りまとめ製本しますので、希望の方は、号数を揃えて下記の担当者まで送付して下さい。

担 当 者 大槻雅弘（経営推進課504）

製本範囲 平成3年4月号（No.462）～平成5年3月号（No.485）

製本代金 3,500円（前回の平成3年並）

備 考 製本範囲のバックナンバー有ります。必要な方は井上（設備課686）まで。

▲▲▲ 他山岳会の会報（受贈分）

1月号 愛宕ニュース（京都愛宕山岳会）

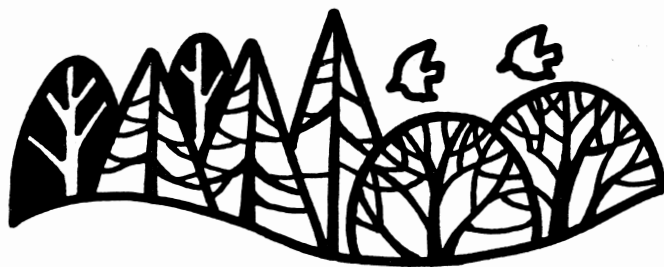
2月号 愛宕ニュース，比良山岳（京都比良山岳会）

3月号 一等三角点（近畿山岳愛好会），比良山岳，趣味の登山（京都趣味登山会），京都山岳（京都山岳会），近畿山行（近畿山行会）北山（北山クラブ），木雞（好山好会），青嶺（京都山の会）

▲▲▲ 山岳部装備点検会

4月3日（土） PM1:00～PM4:00 壬生山岳部 倉庫前

備 考 出来るだけ都合を付けて参集願います。借用中の装備は必ず当日までに返却下さい。



THE LOG CABIN CO.
 H. HASEGAWA'S SHOP FOR ALPINISTS
 KYOTO JAPAN

登山道具店 **ログケビン**
 604 京都市中京区御幸町通娯楽師下ル
 FAX:(075)221-8069 電(075)221-7569
 営業時間:午後3時~8時 お問い合わせはなるべく郵便か
 定休日:月曜日と火曜日 FAXでお願いします。

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
 仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
 厚生会指定
サンコークラフト
 西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
 TEL (075)771-3442

帆布・濾布
 テント・シート
 雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
 TEL 801-5331 (代)
 西大路営業所
 下京区西大路七条下ル
 TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店
今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
 注目のスポーツ
 カヌーをはじめ、
 ひと味違う充実の
 品揃えは必見のもの!!

ビッグホリイケ
 営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>
 京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

